

				<p>家を投入すべきであった。チーフアドバイザーの中には、PCM手法を運用できないなど、プロジェクト運営に関する基本的スキルが不十分であった人もいる。ラオス日本センターとの分離前はプロジェクトリーダーに大学運営の未経験者が座り、中2階ができた形になり、JICA 現地事務所、本部と専門家が直接交渉する場合に比べて時間がかかった。専門家には予算額も知らされず、活動が制約された。専任の調整員がいなかったため、事務管理の技術移転が遅れた。</p> <p>(カウンターパートの意見)</p> <p>一部の短期専門家の派遣のタイミングが、ラオス側の都合とまったく合わない場合があった。また、一部の短期専門家の派遣期間は短かった。特に新規の教科書作成を支援する専門家の場合に。</p>
供与機材の種類、量、設置時期は適切か。		<ul style="list-style-type: none"> ・機材供与実績 ・機材利用状況 ・関係者の意見 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト資料・機材利用管理状況表 ・カウンターパートや教員、専門家 	<p>専門家及びカウンターパート共に、機材の種類、仕様、数量、タイミングともほぼ適切なものであったとの回答であった。ただし、一部の機材については維持管理費が高くつくとの指摘あり。</p>
研修員受け入れ人数、研修内容、研修期間、受け入れ時期は適切か。		<ul style="list-style-type: none"> ・研修員受け入れ実績 ・関係者の意見 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修員受入実績表 ・カウンターパートや教員、専門家 	<p>プロジェクトの全期間を通じて、カウンターパートの長期及び短期の研修が集中的に実施された。JICA の研修制度のみならず、その他の機関が提供する留学生を利用して多くの教員を留学させている。また、日本への留学以外にも、アジア諸国への勉強に多くの教員を送っている。そのこともあって、一般のプロジェクトと比較して、かなり多い人数が長期研修並びに短期研修に参加している。長期研修の場合、2年間の修士課程に送られるケースがほとんどである。</p> <p>なお、長期研修として FEM の教員を日本、タイなどの国の大学に送ったが、教員達の多くが留学するに十分な英語力を持っていないことから、本プロジェクトでは前もって、英語の能力を測り、英語能力の向上させるための対策を講じた。</p> <p>(専門家意見)</p> <p>長期研修で修士号を取得させようとする、JICA の長期研修は技術研修が原型なので、派遣前に決めた期間に縛られることになり、状況に合わせた柔軟な対応が困難である。例えば、あと半年ほど派遣期間を延長すれば修士号が取得できる場合でも、延長は極めて困難であり、それまでの支援が無駄になることもありうる。もっと柔軟な対応が必要であると思われる。また、長期研修で派遣できる人数が限られているので、他のスキーム (JDS、文部科学省研究留学生、FASID= (財) 国際開発高等教育機構など) で教官を派遣せざるをえず、そのための支援に時間を取られてしまう。第三国への長期研修、特にタイ留学は言葉の壁が低く出しやすい。長期研修の枠も大きく、日本での研修よりも出しやすい。早くからこれも活用すべきであった。</p>

	カウンターパートや教員の人数、配置時期、能力は適切か。	・カウンターパート配置状況 ・関係者の意見	・カウンターパートや教員の配置実績表 ・カウンターパートや教員、専門家	教員数は、プロジェクト開始時に30人であったが、2004年3月には52人に増加し、2005年2月時点では約60人へと増加している。プロジェクト開始時の約2倍になっており、教員数の増加については、ラオス側が力を入れていると言える。専門家やカウンターパートの意見では、カウンターパートの配置については、ほぼ適切とする回答が多い。一方、事務部門の職員配置については、不十分であるとする意見が見られる。
	建物・施設の質、規模、利便性は適切か。	・建物、施設の現状 ・関係者の意見	・施設・機材配置状況 ・カウンターパートや教員、専門家	FEMの建物は、我が国の無償資金協力により建築された。施設はおおむね良好な状態である。規模については、最近2年間は、当初の1学年約150名という想定以上の学生数、約250人を受け入れていること、そして、専門課程の開始が3年次から2年次への変更となり、より多くの学生をFEMで受け入れる結果となってしまっていること、また、夜間コースも開始したことから、スペース的には不足するようになっている。
	ラオス側のプロジェクト予算は適切な規模か。	・相手側コスト負担実績 ・教育省の年間予算 ・関係者の意見	・コスト負担実績データ ・教育省データ ・カウンターパートや教員、専門家	政府からのFEMに支給される予算は、公務員の人件費や光熱費だけであり、運営に関する予算の支給は無い。通常コースの学生からは、登録料収入はあるが、授業料は無料となっている。登録料は、学生1人当たり年間5ドルである。一方FEMは、特別コースの学生からの授業料収入がある。その他、教科書販売や調査データの販売からの収入もある(教科書は、日本側の予算で印刷され、FEMに無料で供与している。それをFEMが学生に販売している)。ただし、このような夜間コースの授業料収入や教科書販売による収入があると言っても、FEMの施設・機材の維持管理やFEMの運営費用をすべて賄うことができるまでの収入にはなっていないとのことである。 (専門家意見) 予算不足は如何ともし難い状況であり、昼間の学生から授業料等を徴収することも大学本部から禁止されており、改善が難しい。
プロジェクトマネジメントは適切であったか。	合同調整委員会は、適切に機能したか。	・関係者の意見	・プロジェクト進捗報告書、その他の資料 ・カウンターパートや教員、専門家	日本人専門家は、あまり機能していないとする意見が多く、一方、ラオス側カウンターパートは、機能しているとする意見が多い。 せいぜい年に1回程度しか開催されておらず、昨年3月に開催されて概ね合意の得られたM/Dも最近になってやっと締結される予定であり、形式的なものになっている面もある。 合同調整委員会は、中間評価時と運営指導調査団派遣時に合わせて、2回実施されたのみであるが、特に後者に関しては、プロジェクトの後半で解決すべき課題が関係者間で共有され、有効であったとする意見もある。
	月例会議あるいは毎週の会議は、適切に	・関係者の意見	・カウンターパートや教員、専門家	月例会議については、日本人専門家もラオス側カウンターパートも機能しているという意見が多い。ただし、情報共有の程度について日本人専門家内で、少し異なる意見がある。月例会議での協議内容の共有が図られているとする意見と、ラオス側主席

機能したか。				者が1-2名と少ないことと、月1回だけの情報共有では十分ではないとする意見である。
ラオス側のオーナーシップ（当事者意識）は高いか。		・関係者の意見	・ラオス国立大学幹部、カウンターパート、専門家	ラオス側の本プロジェクトへの関心は高く、協力的であり、JICAが頼りにされているとの日本人専門家の意見がある。ただし、受け身的でプロジェクトへの強いオーナーシップが醸成されたとは言い難いとの意見もある。
JICA事務所とJICA本部との情報共有や意見交換は適切か。		・関係者の意見	・専門家、JICA事務所とJICA本部の担当職員	ほぼ適切に行われていると思われる。ただし、プロジェクト開始から2年半、JCCが開催されていないことに対して、プロジェクト側に適切な指導を行ったのかどうか、またPDMに基づいたプロジェクト活動のモニタリングを指導してきたのかについては疑問が残る。
カウンターパートや教員と専門家との間の意志疎通、協働状況は改善されているか。		・関係者の意見	・カウンターパートや教員、専門家	ラオス側カウンターパートの意見を見る限り、日本人専門家とカウンターパート間のコミュニケーションは良好である。ただし、これは、2004年3月の運営指導調査団報告書にも記載されている点であるが、長期専門家とラオス大学学長や副学長との接触の機会は限られている。今回の終了時評価においても、学長からは日本人専門家の顔があまり見えない、学長に会いに来る機会がほとんど無いとのコメントがあった。これらから判断すると、運営指導調査団報告書に記載されていることを繰り返すことになるが、JICA専門家側は、直接のカウンターパートである学部長やFEM教員だけでなく、その上層部との意思疎通にも努力する必要があると引き続きある。
タイ、フィリピン、ベトナムなど、第三国との協力、連携状況に問題は無かったかどうか、手続、進捗管理は効率的に行われたか。		・関係者の意見	・カウンターパートや教員、専門家	研修受入れ機関との連絡が、本邦との連絡に比較すれば困難なケースもあったが、特に大きな問題が生じることもなく実施された。
効率性を阻害した要因はあるか。貢献した要因はあるか。	カウンターパートや教員の定着度は、良好か。 その他の貢献	・カウンターパートや教員の当初の配置と現状との比較 ・関係者の意見	・プロジェクト進捗報告書、その他資料 ・カウンターパ	カウンターパートや教員の定着度は良好である。日本人専門家によれば、退職する可能性は極めて少ないとのこと。その理由の一つは、ラオスでは一般的に公務員のステータスが高く、唯一の国立大学教官のステータスは非常に高いこと。したがって、給与の水準は低い、海外研修や副収入を得る機会にも恵まれているため、転職希望者は少ない。 (日本人専門家意見)

<p>要因はあるか。</p>		<p>見</p>	<p>ートや教員、 専門家</p>	<ul style="list-style-type: none"> • カウンターパートとの信頼関係（これが効率的運営の基盤である） • 4月から日本センターと分離されたこと（迅速な意思決定と実施が可能になった） • チーフアドバイザーが兼任から離れ、PDM 及び PO が良く活用されるようになったこと (ラオス側意見) • 日本政府、日本人専門家、ラオス政府や教育省の支援 • 近代的な事務室、教室、機材があること • チームワークの良さで豊富な知識と経験があること • 調査研究活動に対する日本側の資金的支援が、教員の経験増加と効率的作業を可能にした等
<p>その他の阻害要因はあるか。</p>		<p>・関係者の意見</p>	<p>・カウンターパートや教員、 専門家</p>	<p>(日本人専門家意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> • カウンターパート内部の連絡不足（Office Memorandum を頻繁に出して補完している） • 非効率な学部運営管理（現在、学部規則整備と共に集中して改善に努めている） • プロジェクト運営に係る専門家が実質的に不在であったこと • 上記が原因となり、プロジェクトの方向性が長期間不明確であったこと (ラオス側意見) • 時々、調整や情報が不十分 • 人材育成計画が不明確 • 行動計画や職務規定が不明確 • 情報伝達があまりうまくマネジメントされていない • 組織図や意志決定権が不明確 • 資質を十分持つスタッフの不足 • 賃金の低さ • 運営コストの不足 • 教員の中には、知識・技能面でまだ不十分なものがあること、等

5項目	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	調査結果																						
	大項目	小項目																										
インパクト	上位目標「FEM（経済経営学部）の卒業生が、ラオス国の市場経済化に貢献する」が達成される見込みはあるか。	中級・上級の管理職の地位にあるFEM卒業生の人数が増加しているか。		・実例があるかどうか、関係者からの情報	・カウンターパート、専門家、卒業生	FEM卒業生が実社会に入り始めてからまだ4年しか経っていないため、ラオスの市場経済化への貢献度を評価するには時期尚早と言える。 ただし、FEM卒業生の中には、ラオスの経済政策に関わる中心的政府機関に就職した者もいる。ラオス中央銀行、財務省、計画投資委員会、国立経済研究所、国立統計センターなどの政府機関である。このことは、FEM卒業生が経済分野の政策決定プロセスに関わり始めたことを意味する。将来、市場経済化にインパクトを与えることが大いに期待される。																						
		FEM卒業生により多くの企業が設立されたか。		・実例があるかどうか、関係者からの情報	・カウンターパート、専門家、卒業生	同上																						
		雇用主の大半がFEMを卒業した従業員に満足しているか。		・雇用需要調査 ・関係者	・雇用需要調査結果 ・教育省幹部、カウンターパート、専門家	<p>2004年8月から9月にかけて、本プロジェクトが実施したFEM卒業生の雇用需要調査結果によれば、FEMを卒業した従業員に対する雇用者側の満足度は、次のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回答数</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>非常に満足</td> <td>12</td> <td>18.5</td> </tr> <tr> <td>満足</td> <td>40</td> <td>61.5</td> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>11</td> <td>16.9</td> </tr> <tr> <td>不満足</td> <td>2</td> <td>3.1</td> </tr> <tr> <td>非常に不満足</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>65</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>回答無し</td> <td>(35)</td> <td>---</td> </tr> </tbody> </table> <p>「非常に満足している」と「満足している」を加えると80.0%となる。一方、「不満足」あるいは「非常に不満足」と回答した割合は、わずか3.1%である。したがって、雇用主の大半がFEMを卒業した従業員に満足していると判断できる。</p> <p>なお、この調査は、FEMの教官に委託して2004年8～9月に教官が自ら訪問して調査を実施したものである。調査対象は、政府機関18、国有企業15、国際機関8、国内民間企業27、外国民間企業22、合弁企業9、その他(NGO)1、合計100組織である。</p>		回答数	割合 (%)	非常に満足	12	18.5	満足	40	61.5	普通	11	16.9	不満足	2	3.1	非常に不満足	0	0.0	計	65	100.0	回答無し
	回答数	割合 (%)																										
非常に満足	12	18.5																										
満足	40	61.5																										
普通	11	16.9																										
不満足	2	3.1																										
非常に不満足	0	0.0																										
計	65	100.0																										
回答無し	(35)	---																										

<p>その他の波及効果はあるか。</p>	<p>その他の影響（正負）はあるか。</p>		<p>・関係者の意見</p>	<p>・カウンターパート、専門家</p>	<p>(1) FEMの特別コース（夜間コース）へのインパクトと特別コースがもたらすインパクト</p> <p>特別コースは、本プロジェクトが開始された後に始まったもので、本プロジェクトの対象には入っていない。しかし、教員、教科書、施設は通常コースと同様のものを利用している。学生数は、通常コース（954人）に比べてかなり多い人数（約2,000人）となっている。本プロジェクト実施により教員の能力が向上し、教科書の質が向上し、良い施設を利用できることは、夜間コースの学生に対し良質の教育を与えていることであり、良いインパクトを与えていると言える。また逆に、特別コースが通常コースに与えているインパクトもある。教員が、特別コースでも講師を担当し経験を積むことで、教授能力の向上につながっているし、追加の手当が得られることにもつながっている。なお、マイナスのインパクトもある。特別コースで教えることは、追加の業務を担当することになり、通常コースにおける教員のパフォーマンスを低下させる要因にもなりかねない。</p> <p>特別コースの大きなインパクトとしては、FEMの財政的自立を助けていることである。現在、FEM収入の大半は、特別コースの授業料収入が占めている。通常コースには授業料は無く、わずかばかりの登録料収入があるのみである。政府からは公務員の人件費は支給されているが、活動に必要な予算の支出はほとんど無い。したがって、特別コースの授業料収入が、FEMの運営に関わる費用を賄う主体となっている。</p> <p>FEMを希望する人数が増加していることは、FEMの教育に対するニーズが高いことを示している。ただし、学生数増加が、教育の質的低下を招きかねないことを考慮すれば、社会的ニーズと教育マネジメントとのバランスを取る必要がある。</p> <p>(2) ラオス国内の他の大学に対するインパクト</p> <p>本プロジェクトで改訂あるいは新規作成された教科書は、ルアンプラバン県やチャンパサック県にある大学（経済経営学部がある）に寄贈されている。本プロジェクトで印刷した教科書は、これらの大学の教育にとって重要なものとなっているであろう。また、ラオス国立大学の中央図書館にも教科書が寄贈されている。また今後、一般販売する計画もある（政府の許可を得る必要があるが）。ラオス国内の他の大学や、将来的にはビジネスカレッジの学生にも利用されるようになることが期待される。</p> <p>また、FEMの教官は上記の2大学の教員に対する研修を定期的に行っている。その他、FEMの卒業生の幾人かが、公立あるいは私立の大学の教員となっている。本プロジェクトのインパクトがラオス中に広がり始めているように思われる。</p>
----------------------	------------------------	--	----------------	----------------------	---

5 項目	評価設問		判断基準 ・方法	必要なデータ	情報源	調査結果
	大項目	小項目				
自立発展性 (見込み)	高等教育並びに市場経済化に資する人材育成におけるFEMの位置付けは明確か。			・教育省など関係政府機関による支援（政策面や財政面）の継続性	・教育省幹部	<p>ラオス大学学長の話によると、ラオス政府幹部のFEMへの関心は高く、FEMへの期待として次のような意向を持っているとのこと。</p> <p>「ラオスはまだ自由経済体制に変えたばかりであり、まだ問題が残っている。FEM卒業生には、銀行や政府の財務機関で活躍してほしいと考えているが、現在のFEMの教育内容は、一般的で広すぎる。正負としては、習ったことが実際にすぐ使えるコース（内容）を実施してほしいと考えている。特に重視する分野は、①経済、②Finance（財務）、③銀行、④ビジネスマネジメント、である。このほかにも、⑤Commerceも大切であると考えている。」</p> <p>特に、財務については、多くの人材を育成して、各県や各群の役所に送りたい（就職）と政府は考えている。</p> <p>このように政府幹部の期待があることは、FEMの位置付けというか、重要性が十分認識されていると思われる。</p>
	教育省あるいはラオス大学内で、本プロジェクトがどう位置付けられているか。			・関係者の認識・意見	・教育省幹部、ラオス大学幹部	<p>上記に示したような政府の期待がある一方で、学長は、FEMのカリキュラムは良いと考えている。FEM卒業生においては、2-3年実社会で働いて、自分でさらに習ったことを基礎に能力向上が図られれば良いと考えている。ただし、政府幹部の意見は、すぐ使える能力を身につけることを重視している。</p> <p>そのこともあって、大学の教育システムを、2年間の教養課程と3年間の専門課程であった教育体制を、1年間の教養課程、2年次と3年次に基礎科目、4年次と5年次に専攻科目に変更した。専攻において、実務の訓練を取り入れ、銀行や財務省でその能力を活かしてほしいとも考えている。今後、実務訓練の強化を考えている。また、卒業生には、各県の財務局の上級職員クラスの役人となれるよう、育成したい。そのためには、修士課程を作りたいとも考えている。</p> <p>ラオス政府は、地方の大学の整備も進めている。北の大学については、韓国から2270万ドル借りて建物の建設と教員の能力向上（修士課程への留学）を進めている。また、学生からも500万ドル出している。</p> <p>また、政府は大学の整備も進めている。ルアンプラバン県とチャンパサック県にある大学にも経済経営学部がある。大学の先生には、卒業生を新規採用しているが、その新規採用者に対する指導をラオス国立大学が行うことになっている。FEMの仕事だけでも大変であるのに、さらに二つの大学を支援する必要がある（両方の大学とも、四つの学部がある。工学部、農学部、経済経営学部、教育学部）。</p> <p>以上、FEMには、特に銀行や財務省並びに地方行政において専門的知識を活用する人材の供給が求められているほか、ルアンプラバン県とチャンパサック県にある</p>

					大学の経済経営学部の支援も求められている。そういった意味から、本プロジェクトはラオス大学内で重要なものと位置付けられている。
事業を継続するだけの能力がFEMに備わっているか。	FEMに運営管理能力は備わっているか。		<ul style="list-style-type: none"> ・運営管理スタッフの配置と能力 ・モニタリング体制の定着状況 ・関係者の意見 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ配置と能力 ・モニタリング体制 ・FEM幹部、カウンターパート、専門家 	<p>FEMは、コモン・ファンドを利用して1人の秘書を常勤スタッフとして雇用している。そして、学部の事務を担当するスタッフは、現況人数でほぼ足りている。しかし、運営維持管理を支援している、プロジェクト雇用のスタッフが数名いる。専門家からFEMの事務スタッフに対する技術移転が進められている最中であり、知識や技能を実際の仕事に応用できるようになるには、もう少し時間を要する。FEMの組織的自立発展性を確保するには、業務をもっとシステムチックにすること、意志決定プロセスをもっと早めかつ明確化すること、ラオス側スタッフ間の情報共有をもっと図ること、などが必要である。</p> <p>教員については、現時点においても多くの教員が海外留学していること、それに伴って一部教員の教育業務の付加が多くなっていることがある。このように教員にとっては厳しい状況下にある一方で、FEMに入ってくる学生数が増加し、大学としては学生数を制御することができていない。このことは、FEMの組織的自立発展性を阻害しかねない。教員人材管理のための実現可能な計画を立てる必要がある。</p>
	財務状況は良好か。今後の予算措置はどうか。		<ul style="list-style-type: none"> ・FEMの財政状況 ・関係者の意見 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算記録 ・教育省幹部、ラオス大学幹部、FEM幹部、カウンターパート、専門家 	<p>基本的には、政府予算は、人件費と光熱費のみである。運営に関する予算の支出は無い。授業料については、通常コースの学生からはわずかばかりの登録料収入があるだけである。夜間コースの学生からの授業料がFEMの主たる財源である。ただし、運営維持管理に必要な経費をまかなえるわけではない。</p> <p>なお、本プロジェクトでは、JICAが印刷費を負担して作成した教科書を一旦FEMに贈与している。その贈与された教科書を学生に有料で販売することでFEMは収入を得ている。その収入をリボルビング・ファンドと呼ばれる口座に入れている。また収入の一部をFEMのコモン・ファンドに移転すること、また教官と学生が実施した統計調査のデータを販売して得た資金などをコモン・ファンドに入れることによって、FEM独自の予算をある程度確保することに努めている。</p>
	JICA協力終了後FEMは、必要な人材を雇用できるか。		<ul style="list-style-type: none"> ・人件費確保の見通し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオス大学幹部、FEM幹部 	<p>公務員の人件費は政府予算から支出される。これまで、教員の人数増加を優先し、着実な教員増加が図られている。プロジェクト開始時に30人であった教員数が、現在では2倍の約60人へと増加している。この状況を見る限り、JICAプロジェクト終了後においても引き続き教員を増加させるニーズがあるならば、教員の雇用は可能であろうと考えられる。一方、専任の事務職員の雇用については、本プロジェクトで働きかけてきたところであるが、結局、常勤の公務員としての事務職員が雇用されることはなかった。一般的に公務員の削減圧力があるラオスの状況が続く限り、今後も事務職の常勤公務員を雇用することは困難であろう。したがって、必要な場合は、FEM独自の財源を用いて、契約職員を雇用する方法で対処せざるを得ないであろう。</p>

<p>JICA 協力終了後 FEM は、教科書開発・改訂に必要な予算を確保できるのか。いくら必要か。</p>		<p>・関係者の意見</p>	<p>・FEM 幹部、カウンターパート、専門家</p>	<p>本プロジェクトにおける教科書の開発・改訂では、原稿作成費用（執筆担当者への謝金）と印刷費用を JICA が負担している。印刷した教科書を FEM に贈与し、FEM は学生に有料で販売している。それをリボルビング・ファンドに積み立てている。2004 年 12 月時点の積立額は、8,566 ドルである。2005 年 1 月から 2006 年 8 月までに 38 種類の教科書を作成・印刷する計画がある。それらの教科書を販売することで、リボルビング・ファンドは 19,966 ドルに増加するとした試算が日本人専門家によってなされている。この時点まで、JICA の支援が継続するものと仮定すると、約 2 万ドルの資金が FEM に積み立てられることになる。また、教科書の新規作成や改訂が一通り終了すると仮定するならば、その後は、改訂や新規作成に必要な経費は少なくなると見込まれる。現在、1 種類の教科書の作成・印刷に必要な経費は 600 ドルと見積もっているため、教科書開発・改訂に必要な予算は、このリボルビング・ファンドでまかなえる可能性が高い。</p>
<p>JICA 協力終了後 FEM は、研究活動実施に必要な予算を確保できるのか。いくら必要か。</p>		<p>・関係者の意見</p>	<p>・FEM 幹部、カウンターパート、専門家</p>	<p>どのような研究活動を行うか、また、研究予算をどこから確保するかに左右されると思われる。本プロジェクトでは、18 件のコンサルタント業務あるいは研究業務を実施しているが、大半が、委託を受けて実施したものである。ベルギーのプロジェクト関連の業務が 2 件あるが、その他は、日本の団体の支援によるものが多い。JICA 支援によるもの 2 件、JBIC 関連 1 件、アジア研究所関連 4 件、笹川平和財団関連 6 件などである。今後も、このような委託業務を継続的に受けられるよう努力することが求められる。</p> <p>なお、本プロジェクトの予算を使って、2004 年 5 月から 6 月にかけて、首都ヴィエンチャン市内の事業所調査が実施された（事業所調査とは、一般的に、事業所及び企業の産業、従業者規模等の基本的構造を地域別に明らかにするとともに、事業所及び企業の名簿を整備することを目的として行われる事業所及び企業についての最も基本的な統計調査のこと）。この調査には、FEM の教員 39 人と学生 542 人が参加している。7,130 社のデータを収集し、統計資料が作成された。日本人専門家の報告では、この活動を通じて、調査のノウハウを獲得し、経済実態に直接触れるという大きな成果が合ったとしている。</p>
<p>JICA 協力終了後 FEM は、定期刊行物（ジャーナル）発行に必要な予算を確保できるのか。</p>		<p>・関係者の意見</p>	<p>・FEM 幹部、カウンターパート、専門家</p>	<p>FEM ジャーナルは、ラオス国内の関係機関だけでなく、日本の大学関係者やその他海外の大学にも数多く配布されている。FEM ジャーナルの送付にはかなり経費がかかっているとのことであり、JICA の支援が終了後に同様の規模で配布できるかどうか疑問である。</p>

か。いくら必要か。				
自主財源確保は、順調か。どの程度のFEMの財務状況に貢献しているか。		<ul style="list-style-type: none"> ・自主財源の記録 ・関係者の意見 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主財源の記録 ・FEM 幹部、カウンターパート、専門家 	<p>政府からの FEM に支給される予算は、公務員の人件費や光熱費、通常コースのほぼ無いに等しい授業料（登録料）である。一方、FEM は、特別コースの学生からの授業料収入がある。その他、教科書販売や調査データの販売からの収入もある（教科書は、日本側の予算で印刷され、FEM に無料で供与している。それを FEM が学生に販売している）。FEM では、リボルビング・ファンドを作り、そこに教科書販売収入を入れている。教科書の再印刷費をそこから出している。最近それとは別に、コモン・ファンドというものを作った。これは、FEM の研究を振興するために設けたもので、各種の収入を貯蓄している。十分な収入を上げつつ、これらのファンドが適切に運用管理されれば、財政的自立発展性を高めることにつながると期待される。</p> <p>このように財政的自立発展性が改善しつつあるといえども、プロジェクト終了後、図書館に必要な図書を購入するための費用を負担できるようになるには、財政的自立発展性確保のための実現可能な計画を策定する必要がある。</p>
移転された技術は定着していくか。	カウンターパートや教員の、指導・教授能力や研究能力は向上したか。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家による評価結果 ・カウンターパートや教員による自己評価結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家 ・カウンターパートや教員 	<p>日本人専門家からの技術移転や日本、タイ、フィリピンでの長期及び短期の研修を通じて、FEM の多くの教員が、知識と技能を身につけてきた。修士資格や博士資格を持つ教員数は、着実に増加している。これは、技術的自立発展性を確保する上で重要な成果である。教員の幾人かは、専門家の支援を受けつつ実施した、コンサルタント業務や調査研究活動の経験を通じて研究能力を向上させている。このような形で、本プロジェクトでは教員の知識と技能の着実な向上が図られている。</p> <p>ラオスでは、教員は公務員であり高いステータスを持っている。したがって、ほとんどの教員が FEM の教員であり続けるものと思われる。海外留学し、修士資格や博士資格を取得した教員には、ラオス帰国後、FEM の主導的教員となることが期待されている。技術的自立発展性を確保するためには多くの要素が必要であるが、特に、教員の能力開発を継続的に進める必要がある</p>
教員に、自立的な研究能力が備わっているか。		<ul style="list-style-type: none"> ・FEM 幹部、専門家による評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・FEM 幹部、専門家 	<p>教員の研究能力向上を図っている段階である。これまでに研究活動に従事した教員は、5 割程度である。複数のコンサルタント業務や研究活動に従事した教員数は、約 60 人いる教員のうちのわずか 8 名である。また、研究能力の高い教員に業務の委託が集中する傾向があるとする意見も聞かれた。したがって、自立的な研究能力が備わっている教員はまだ限られているものと思われる。</p>
カリキュラムや教科書の開発・改		<ul style="list-style-type: none"> ・FEM 幹部、専門家による評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・FEM 幹部、専門家 	<p>これまでに作成された教科書の中には、日本人専門家の支援を受けずに、ラオス側教員だけで作成されたものもある。したがって、教科書開発・改訂を行う能力は、着実に向上しているものと判断される。ただし、教員の中には学部卒業後間もない</p>

		カリキュラムや教科書の開発・改訂を自立発展的に行う能力が備わっているか。		・FEM 幹部、 専門家による 評価	・FEM 幹部、 専門家	これまでに作成された教科書の中には、日本人専門家の支援を受けずに、ラオス側教員だけで作成されたものもある。したがって、教科書開発・改訂を行う能力は、着実に向上しているものと判断される。ただし、教員の中には学部卒業後間もない人も多いため、全体としては、まだまだ能力向上の余地があるであろう。
		ジャーナルを定期刊行できる能力（研究論文執筆）が備わっているか。		・FEM 幹部、 専門家による 評価	・FEM 幹部、 専門家	これまでに2回FEMジャーナルが刊行されている。創刊号は、日本人専門家の論文とラオス人教員の論文の両方が掲載されたが、2号ではすべてラオス人教員の論文となっている。論文の質も確保されているとの評価がある。FEMジャーナルの発行をラオス側に全面的に移管すると質が十分確保されていない論文も掲載されるのではないかと危惧する意見もあるが、基本的には、ジャーナルを定期刊行できる能力は身に付きつつあると思われる。
		機材の維持管理は適切に行われる見通しがあるか。		・保守管理状況 ・関係者の意見	・保守管理記録 ・FEM 幹部、 C/P、専門家	施設機材の状況は、全般的には良好である。エンジニアを雇用して施設機材の維持管理にあたらせている。ただし、維持管理要員はそれでも不足しているとのことである。維持管理に要する費用はかなり高いため、JICA支援が無くなった場合に、はたして良好な維持管理を継続することができるかどうか、課題があると思われる。
		自立発展性に影響を与えた貢献・阻害要因は何か。		・関係者の意見	・FEM 幹部、 C/P、専門家	学生数を大学では制御できないこと、そして国からの予算は、公務員の人件費と光熱費だけであり、運営に関する予算が無いこと、また、通常コースの学生から授業料を徴収することができないことなど、が、自立発展性を妨げる要因である。これらの課題を解決することは、当面困難であろうと考えられる。したがって、この状況を前提とした、改善策を模索していく必要がある。FEM独自の収入創出や、その収入を利用したのスタッフ雇用など、すでに実施されているものもあるが、今後は、JICAの支援が無くなった場合を考えた対策、特に資金面での対策や研究能力をどうやって継続的に向上させていくかについて検討が必要と考えられる。

卷末資料4 FEM教職員リスト (2005年2月)

No		Name	Family Name	Sex	Birthday	Y.of Join	Qualif	Country	Institution	Year	Teaching Subject	Eng.	Other F.L	Remark	
04-001	1	M	Bouavieng	Souphanthong	M	15/4/1958	1995	MBA Marketing	Thailand	Chulalongkorn University	2002	Marketing, OB	Little		
04-002	2	E	Bounteng	Keochanhla	F	20/2/1963	1995	MB Econ	Thailand	Chiang Mai University	2001	Agr Eco, Micr Econ, Pop. Econ.	Little	Russian	
04-003	3	E	Bounthanh	Fhongnambèng	F	5/10/1962	1995	MM Econ	Thailand	Chiang Mai University	2001	His of Lao Econ. Development Econ.	Little	Russian	
04-005	4	E	Somchith	Souksavath	M	12/5/1958	1995	MS Eco	Thailand	Kasersart University	2000	Eco. Development	Fair	Vietnam.	
04-006	5	A	Nantha	Vongmachanh	M	4/8/1960	1996	B.Rus.+Eng.	Laos	Vientiane Pedagogical University Institute	85 - 99	English	Good	Russian	Acting Head of FEM Office & teach
04-007	6	MA	Phonphet	Miphènglavanh	F	12/9/1969	1996	MBA	Thailand	Kasersart University	2003	Mk, OM	Fair	Vietn.Thai	
04-008	7	AL	Saykham	Phongsavath	F	20/3/1957	1996	B.Russian	Laos	Vientiane Pedagogical University Institute	1988	English	good	Russian	FEM's head library
04-009	8	M	Thongvanh	Sirivanh	M	30/11/1965	1996	MBA	Thailand	Srinakharinh Wirot University	2000		Good	French Slovak	
04-010	9	E	Lavanh	Vongkhamthane	M	7/4/1969	1997	MS Eco	Thailand	Kasersart University	2000	Env. Economics Project Planning	Fair		
04-011	10	E	Sengchanh	Chanthasene	F	17/9/1960	1997	MS Eco	Germany	Technical University Chemnitz-	1997	Econ. Dev	Fair	German	
04-012	11	M	Southanom	Phinsavad	F	19/12/1969	1997	BS Pol Sc	Laos	Vientiane Pedagogical University Institute	1993	Eco History	Fair	Japanese	In Japan late 2000 for further studies (JICA Fund)
04-013	12	M	Boonheng	Silakoon	M	5/2/1958	1998	MBA	Thailand	Thammasath University	1998	Math & Mgt, Corporate	fair	French	
04-014	13	M	Khamlusa	Nouansavanh	M	19/10/1954	1998	MBA	France	Ecole Supérieure de Commerce de Lyon	1992	POM, Accounting 2	Good	French	
04-015	14	E	Khamnikone	Sipaseuth	M	15/6/75	1998	MS Eco	Thailand	Kasersart University	2004	Macro, Money-banking, Economic	Little		
04-016	15	M	Khampheui	Pommachanh	M	30/8/1961	1998	MS Mgt	France	Institut Supérieur de Gestion de Paris	1995	Fin & Acctg	Good	French Slovak	
04-017	16	M	Manysot	Lianepaseuth	M	1/4/1956	1998	MBA	Thailand	Thammasath University	1998	Math & Mgt, product operate	fair	French/Russ	
04-018	17	E	Mounic	Bounyalasy	F	11/8/1976	1998	BS Math	Lao	NUOL	1998	Math., Stat.	Little		Candidate for Master degree program fellowship (in Japan) Apr
04-019	18	E	Thatnignom	Souksone	F	23/01/1977	1998	BS Math	Lao	NUOL	1998	Math., Stat.	Little		Studies - for Master degree program in Japan. (JICA Fund)
04-020	19	E	Bounthone	Soukavong	M	18/3/1974	1999	MEEcon	Japan	Kobe University	2003	Inter. Econ., Asian Econ., Micro Econ.	good	Japanese	
04-021	20	M	Chansada	Sonnasinh	F	17/7/1978	1999	MBA ACC	Japan	Kobe University	2003	Acct	very good	Japanese	
04-022	21	M	Khongsavang	Xayalath	M	23/9/1975	1999	BA	Thailand	Kasersart University	1999	Finance	fair	Thai	Continue study Master degree program in Japan (JICA Fund)
04-023	22	M	Phosy	Thipdavanh	M	5/12/1960	1999	MBA	Thailand	Kasersart University	1999	Inter Bus, Org behar, Inter. MK	Fair		
04-024	23	M	Khanphathip	Thephavongsa	F	27/9/1977	2000	BA	China	Wuhan University	2000	Introduction to management	Little	Chin/Jap	Continue study Master degree in Japan. Aug. 2002. (JICA Fund)
04-025	24	A	Phiengsanith	Chanthavixay	M	23/6/1968	2000	B. Russian & English	Laos	NUOL	88	English	Good	Russian	Adm. Staff & teach
04-026	25	E	Phinsèng	ChanNgakham	F	20/10/1975	2000	BS Eco	Thailand	Chulalongkon University	2000	Macroeco, Microeco	Fair		Just received Asian Youth Scholarship to study in Philippine - Japan

No		Name	Family Name	Sex	Birthday	Y.of Join	Qualif	Country	Institution	Year	Teaching Subject	Eng.	Other F.L	Remark	
04-027	26	M	Savandouang chit	Sengduane	M	11/4/1977	2000	BA Accounting	Thailand	Songkha University	2000	Intro to Mana, Accounting 1	Little	Continue study in Master degree program in Philippine. (Japanese Fund)	
04-028	27	E	Sayasack	Rasachack	M	7/9/1978	2000	BS Eco	Thailand	Sinakharinh Viroth University	2000	Macroeco	Little	Study for Master degree in Japan (JICA fund) Sept.04	
04-029	28	M	Sithixay	Xayavong	M	14/5/1974	2000	BA	China	Shandong University	2000	Inter. Eco, Accounting 1	Little	Chin /Jap	Continue study Master degree program in Japan (Sept, 2002. JICA Fund)
04-030	29	AC	Souliphan	Sommalath	M	29/6/1959	2000	BA French	Lao	Vientiane Pedagogical Institute	1984	Computer	Good	French	
04-031	30	M	Thongphet	Chanthanivong	M	20/04/1962	2000	MBA	Thailand	Asian Institute of Technology	1999	MIS	Good	French	
04-032	31	E	Vadsana	Chanthanasinh	F	9/1/1975	2000	BS Eco	Thailand	Thammasath University	2000	Eco development	Fair	Thai	Studies in Master degree program in Philippine. (Japanese Fund)
04-033	32	E	Bounlert	Vanhnalat	M	12/3/1978	2001	BA	Laos	NUOL	2001	IE, Macr, Money	Fair	Jap	Continue study Master degree program in Jap (JICA Fund) March
04-034	33	E	Bounmy	Inthakesone	M	18/7/1977	2001	BSc	Laos	NUOL	2001	Math, Stat, QA	Fair	French	
04-035	34	M	Boutsakhone	Koerodom	F	4/27/1980	2001	BBA	Laos	NUOL	2001	Acc	Fair	French	
04-036	35	A	Chanpaseuth	Vongphouthone	F	7/9/1973	2001	B. English	Laos	Vientiane Pedagogical University Institute	94-98	English	good		FEM 's secretary & teach
04-037	36	A	Lamphou	Bounvilay	F	2/12/1979	2001	Pre.BA	Laos	Paxpasak Tech	2001		Little	Thai	Adm. Staff
04-038	37	AL	Manivone	Vongxay	F	9/10/1982	2001	Pre. BA	Laos	Lattana Institute	2001		Little	Thai	Library's staff
04-039	38	M	Monethong	Bouasengthong	M	31/12/1977	2001	BBA	Laos	NUOL	2001	Acc1, ACC 2, QA	Little		
04-040	39	M	Niddavone	Vongsanga	F	30/6/1978	2001	BA	Laos	NUOL	2001	Lao Business	Fair	Jap.	Studies for Master degree program in Japan. (JICA Fund) Apr.04
04-041	40	M	Phanphasa	Lomchanthala	F	6/10/1978	2001	BBA	Laos	NUOL	2001	MK, MG, Acc	Fair	Jap.	
04-042	41	M	Phokham	Phommavong	M	3/3/1978	2001	BA	Laos	NUOL	2001	MG, Inter, Project	Fair		Continue study aster degree in Thailand (Apr, 2004, JICA Fund)
04-043	42	M	Phosy	Chanhming	M	3/5/1967	2001	MA- TESOL MBA	USA-Jap.	University of Arizona Wasca University	1998-2001	Logistics, Entrepre	very good	Jap	
04-044	43	M	Phoudsady	Choummaly	F	1/1/1980	2001	BBA	Laos	NUOL	2001	MG, MK, QA, ACC	Fair		
04-045	44	M	Phouthasone	Bouppha	F	24/6/78	2001	BA	Laos	NUOL	2001	Management	Fair		Continue study aster degree in Thailand (Apr, 2003, Japanese Fund)
04-046	45	M	Sengsaden	Bounlavong	M	8/1/1974	2001	BA	Laos	NUOL	2001	ACC 2	Fair	Chinese	Continue study aster degree in Thailand (Apr, 2004, JICA Fund)
04-047	46	M	Sitthatha	Taikcophithoun	F	27/1/1978	2001	BA	Laos	NUOL	2001	MG, ACC2	Fair	French	Continue study Master degree in Thailand (April 2004, JICA Fund)
04-048	47	M	Vannisa	Thammachak	F	25/10/1978	2001	BA.	Laos	NUOL	2001	Management	Fair		Continue study aster degree in Thailand (Apr, 2004, JICA Fund)
04-049	48	E	Viraxay	Phoneko	M	25/6/1977	2001	BA	Thailand	Thammasath University	2001	Economics	Fair	Thai	Continue study aster degree in Thailand (May, 2003, Thai Fund)
04-050	49	E	Bouasone	Sengsourivong	F	12/6/1978	2002	BA	Vietnam	National University of Hanoi	2002	IC, Macro., Inter Eco	Little	Vietnamese	
04-051	50	M	Pakaiphone	Syphoxay	F	15/1/1981	2002	BBA	Laos	NUOL	2002	MG	Fair		

No			Name	Family Name	Sex	Birthday	Y.of Join	Qualif	Country	Institution	Year	Teaching Subject	Eng.	Other F.L	Remark
04-052	51	E	Piya	Wongpit	M	23/10/1979	2002	BA	Thailand	UTTC	2002	IE, Macr,	Fair	Thai	Studies for Master degree program in Japan. (JICA Fund) 9/04
04-053	52	E	Saysamone	Phoyduangsy	M	2/6/1977	2002	BA	Laos	NUoL	2002	IE, Macro	Fair	Jap.Fren	Studies for Master degree program in Japan. (JICA Fund) 9/04
04-054	53	E	Sisavay	Phimachack	M	25/12/1979	2002	BSc	Laos	NUOL	2002	Math, Stat.	Little		
04-055	54	E	Somchit	Khammoungkhoun	M		2002	BA	Lao	NUOL	2002				Studies for MBA in Japan (JICE Fund)
04-056	55	AL	Viengsamai	Poatho	M	26/12/1977	2002	BA	Lao	NUOL	2002	English	good		Library's staff & teach
04-057	56	M	Xayphone	Kongmanila	M	30/12/1973	2002	BA. Int	Thailand	University of Thai Chamber of Commerce	2001	MIS, ACC 2	Little	Thai	Studies for MBA in Japan (JICA Fund)
04-058	57	A	Khamko	Chantharangma	M	1/5/1971	2003	BA	Laos	NUOL	2003		fair		Adm. Staff
04-059	58	E	Oukham	Sisounonth	M	19/4/1972	2003	BS Eco	Russia	Odessa University of Economics	1994	Statistic, Micro	fair	Russian	
04-060	59	E	Phouphet	Kyophilavong	M	5/2/1974	2003	Dhp	Japan	Kobe Unuversity	2003	Macr. Ec., Econometrics,	good	Japanese	
04-061	60	AL	Bounvilay	Sichanthala	F	27/5/1979	2004	SE	Lao	NUOL	2004		good		Library's staff
04-063	61	E	Ka	Phaydanglobriayao	M	9/9/1980	2004	BA	Laos	NUOL	2003	Micro Ec, Macro Ec, Inter Ec	Little	Japanese	
04-064	62	E	Phanseng	Viphavanh	M	28/4/1981	2004	BA	Laos	NUOL	2003	Micro Ec, Macro Ec, Inter Ec	fair		
04-065	63	M	Phetsamone	Phommavong	M	12/8/1963	2004	MBA	Thailand	Kasertsart University	2004	MIS, Agr. Mang	Little		
04-066	64	E	Somnack	Yawdhacksa	M	16/7/1981	2004	BA	Laos	NUOL	2003	Micro Ec, Macro Ec	Little		
04-067	65	A	Thippachan	soulivong	F	19/3/1981	2004	BA	Lao	NUOL	2003	Micr	fair		Adm. Staff & teach (no registration)
04-068	66	M	Thongsavanh	Nakhavith	F	19/4/1958	2004	BA	Laos	NUOL	2002	Office Mang,	Good		
04-069	67	AC	Vaiyoth	Lianephacuth	M	25/8/1980	2004	BSc	Laos	NUOL	2003	Acc	Little		
04-070	68	AC	Vilayath	Vongdala	F	1/2/1980	2004	BA	Laos	NUOL	2003	Acc, Marketing	Fair		